

着任のご挨拶 「長崎から考える」

河合 公明

皆さん、はじめまして。市民社会の組織で30年近く核兵器廃絶運動に携わり、2023年4月にRECNAに着任した河合公明と申します。国際法の中でも国際人道法という武力紛争に関する法—かつては「戦争法」と呼ばれました—を専門とし、核兵器の問題について、国際法および市民社会の視点から研究しています。これから長崎の皆さんには、大変にお世話になります。どうぞよろしくお願いたします。

存命であれば、本年は私の父が白寿を迎える年にあたります。戦争体験者だった父と母は、時代の制約で小学校の教育を受けただけでしたが、私に大学教育まで受けさせてくれました。大学2年生の時のことだったと記憶しています。国際政治学を勉強していた私に、「難しそうなことを勉強しているな」と、父が声をかけました。父は、「戦争に反対するのに難しい理由はいろいろ。悪いものは悪い」と続けました。

父は神奈川県川崎で空襲を受け、負傷した体験の持ち主でした。私は小さい頃から何度かその話を聞いていました。母からは、疎開の話や芋の蔓を食べた話を聞いていました。我が家では、8月はすいとんを食べる月でした。その頃の私は、市井の人々が戦争で攻撃されることを国際法が禁止しているとは知りませんでした。

「戦争に反対するのに難しい理由はいろいろ。悪いものは悪い」という言葉は、今も、私の胸に深く刻まれています。国際法では、武力紛争で使用される兵器—害敵手段—は、市井の人々—文民—に向けて使われてはならないというルール—区別原則—があります。国際司法裁判所のヒギンズ判事は、「核兵器であれ他の兵器であれ、文民を攻撃することはいかなる場合も絶対に許されない」と述べました。自分たちが攻撃対象とされる戦争について、それを無条件で悪いとする市井の人々の言葉は、国際法という言葉でもあったのです。



戦争をめぐる、兵器を使う側から見た議論が展開されがちです。しかし国際法では、兵器を使われる側—攻撃される側—から見た議論も重要です。国際法は、攻撃における「標的は何か」を問うています。市井の人々が攻撃されることがあつては、絶対になりません。そのルールの意味について、目で見て、耳で聞いて、心で感じて、理性で考える機会を提供してくれるのが、戦争被爆地である長崎だと思います。

「長崎から考える」を自身の出発点にして、これからも研究に取り組んでまいります。

(かわい きみあき、RECNA副センター長・教授)

カーネギー国際平和財団との共同プロジェクト「核軍縮への新たな道程」を開始

吉田 文彦

RECNAは、カーネギー国際平和財団との共同プロジェクト「核軍縮への新たな道程」を開始し、その研究成果を本として出版することで合意した。広島・長崎への原爆投下から80年となる2025年度を目標に、核兵器政策の新たな動向を分析

し、核軍縮に向けた政策の再活性化を探る本を出版する計画である。

共同プロジェクトは2023年7月から2025年6月までの2年間である。研究成果である本は無料でダウンロード可能なものと

し、英語、日本語で出版し、中国語、ロシア語、フランス語、韓国語版の出版も検討していく。核軍縮・不拡散に関心を持つ学生・院生を想定読者にしながら、より多くの大学で参考文献として使われることをめざしている。

カーネギー国際平和財団は、米国の首都ワシントンDCにある世界有数のシンクタンクのひとつで、複雑に変化する争いの絶えない世界で、戦略的なアイデアと独自の分析を生み出して、米国内外の外交政策に影響力を発揮している。次世代の国際的な学者・実務家を育成することで、国や国際機関が最も困難なグローバルな問題に取り組み、平和を守ることを支援している。

今回の共同プロジェクトはRECNAからの呼びかけにカーネギー国際平和財団が応じたもので、同財団のジョージ・パーコピッチ副理事長(核問題の専門家)とRECNAの吉田文彦センター長、長崎大学多文化社会学部の西田充教授(RECNA教授を兼務)が中心となって進める。ウクライナ危機や中国や北

朝鮮の核戦力増強などで、核軍縮の行方が見えにくくなって
る中で、核軍縮時代への逆行に歯止めをかけ、核軍縮への
新たな道程をさぐることを目的にしている。日米だけでなく欧州
やアジアの専門家との交流・意見交換も深めて、多角的な視
点から分析を進めていく。

2022年10月にRECNAは、長崎市在住であった寄附者(故人)から約1億円の寄附をいただいた。この寄附者は学徒動員で長崎市茂里町の三菱の兵器工場で働いていたが、原爆投下日はたまたま仕事を休んでいたため、被爆をのがれた。戦争で旧友が亡くなったこともあり、鎮魂の意味を込めて、核兵器廃絶の研究などに役立てていただきたいとRECNAへ寄附をいただいた。その中の一部を活用し、被爆80年に向けてカーネギー平和国際財団と大型の共同プロジェクトを開始することにした。

(よしだ ふみひこ、RECNAセンター長・教授)

ナガサキ・ユース代表団ウィーン活動報告

ナガサキ・ユース代表団 第11期生

サイドイベント “Writing Peace- Uniting People Through Nagasaki and Japanese Calligraphy- ”

私たちナガサキ・ユース代表団第11期生は、これまで「長崎を最後の戦争被爆地に」という想いのもと、「核兵器を中心とした人とのつながり」をテーマに活動してきました。長崎や広島での活動を通して、伝えていくだけではなく、そこから何を考えなければいけないのか、自分がこれから生きていく世界をどのような世界にしたいのか、今のままでいいのか、自分には何ができるのか、見つめ直しました。

その中で、全ての社会問題において前進するには知ることが重要だと考えました。その手段として書道を用いて個人の考える平和への想いを長崎、ウィーンの参加者に綴ってもらいました。長崎では大学生、留学生、大学教員職員、被爆者、平和活動の関係者等に参加してもらいました。ウィーンでは大石県知事、鈴木市長、国際機関日本政府代表部の今西公使、カザフスタンの元外交官、CTBTO関係者、各国のNGO関係者に参加してもらいました。それぞれの平和への想いによって最終的に[一つの動画](#)にまとめました。

各国政府代表部や専門機関との面談

私たちは、会議の傍聴やイベントへの参加の他に各国の大使や外交官、国連の機関の関係者ともお会いしました。在ウィーン国際機関日本政府代表部の特命全権大使、軍縮会議 日本 政府代表部 特命全権大使、日本原水爆被害者団



体協議会の被爆者、オランダの軍縮局長、スーダン大使、韓国大使、アメリカの核不拡散担当大統領特別代表の大使、また、国連の機関である、CTBTO(包括的核実験禁止条約機

関準備委員会)およびIAEA(国際原子力機関)の関係者にお会いしました。

平和首長会議「ユースフォーラム」

このフォーラムは「次代を担う若者たちが自らの平和活動を通して感じた平和への思いを発表し、意見交換することを通して、核兵器のない平和な世界の実現を訴えるとともに、交流を深め、今後の活動の充実につなげる」というねらいがあります。私たちの他に、広島の高中生やウィーンの高校生を始めとする世界各国の若者が合わせて8組発表を行いました。ユース代表団からは、ナガサキ・ユース代表団について、任命されてからの日本での取り組み、ウィーンでのサイドイベント、そして私たちの平和への考えを発表しました。各団体から様々な話がありましたが、国籍や年齢に関係なく、核兵器廃絶を目指すことで一致していることを再確認することができました。また、フォーラムの最後には中満泉国連事務次長兼軍縮担当上級代表から「若い方の真剣な議論は、国連としてもありがたい」というメッセージをいただきました。

ユースフォーラムを通して、私たち若者がそれぞれの場所で発信し、そして互いに連携を図ることで活動を高めていくことが大切だと実感し、今後も活動していきたいと決意を新たにしました。

ナガサキ・ユース代表団 第11期生

長崎大学薬学部2年	有吉 葉奈子
長崎大学環境科学部2年	今岡 明日美
長崎大学多文化社会学部3年	梶 立人
長崎大学多文化社会学部2年	末廣 万葉
長崎大学院教育学研究科1年	平林 千奈満
活水女子大学国際文化学部3年	安元 和愛
長崎大学多文化社会学部2年	山元 さくら

※ 活動報告会のようすを [こちら](#) からご覧いただけます。

核兵器と国際政治、核兵器と国際人道法に関するRECNAポリシーペーパーを刊行 吉田 文彦、河合 公明

2021年1月に核兵器禁止条約(TPNW)が発効した。被爆地を含め、世界の多くの国々で「核のない世界」を望む人々にとって歴史的な一歩であった。しかしながら、核抑止はこの世界の安全保障政策に深く広く根を張っており、核抑止依存諸国(核を持つ国、核の傘国)はTPNWに反対の、あるいは慎重な態度をとり続けている。

理想主義(TPNWグループ)と現実主義(非TPNWグループ)が鋭く対峙する構図となり、核不拡散条約(NPT)を基盤にした核軍縮・不拡散によって国際安全保障、国家安全保障の安定化をはかるといふ、ここ半世紀の核問題のグローバル・ガバナンスの根幹さえ揺るがしかねない事態となっている。

加えて、ウクライナを侵略したロシアが「核の恫喝」を繰り返して核戦争リスクを高め、米国との新戦略兵器削減条約(新START)の履行停止も宣言した。米国と中国の対立関係も強まって、核軍縮の行方はすっかり視界不良に陥ってしまった。

そうした中で進められてきたのが、日本学術振興会の科学研究費助成(基盤研究B)による研究プロジェクト「安全保障を損なわない核軍縮」(研究代表者・吉田文彦)である。核抑止と核軍縮に関する理想主義・現実主義の双方に存在するバイアスの矯正作業を経て、両者間の「最大公約数＝共有可能な中庸領域」を見定め、「安全保障を損なわない核軍縮」に向けた最適解と重点政策群を提示する。これを主たる目的に研究を続けてきた。

最適解模索のプロセスで必要なのは、様々な分析・論評を踏まえた核兵器や核抑止に対する「総合的な評価」である。研究チームはここ1年余り、「総合的な評価」のための情報の収集と整理、多様な考え方に関するヒアリングや文献調査、それらに基づく包括的な意見交換に取り組んできた。

その成果が、ポリシーペーパーNo.17「核兵器問題の主な論点整理：国際政治・安全保障編」(4月10日公開、改訂版6月22日)、ポリシーペーパーNo.18「核兵器問題の主な論点整理：国際人道法編」(5日31日公開)として刊行された。

[ポリシーペーパーNo.17](#)の執筆は、吉田文彦(長崎大学)、中尾麻伊香(広島大学)、西田充(長崎大学)、向和歌奈(亜細亜大学)、河合公明(長崎大学)、堀部純子(名古屋外国語大学)、樋川和子(大阪女学院大学)、遠藤誠治(成蹊大学)、牧野愛博(朝日新聞)が担当。「歴史の中の核兵器の再検討」、「国際政治と核抑止・核軍縮の複雑な関係」、「核不拡散条約、核兵器禁止条約と市民社会」、「核不拡散の多面的な課題」、「核抑止と核軍縮の新局面」、「国際政治理論による核抑止・核軍縮の再検討」、「変化するアジア・太平洋地域における安全保障環境」という章立てで、核兵器をめぐる論点を包括的に検討している。

[ポリシーペーパーNo.18](#)の執筆は、河合公明(長崎大学)と真山全(大阪学院大学国際学部教授/大阪大学名誉教授)が担当。ロシアのウクライナへの軍事侵攻で改めて注目を集

めている国際人道法を取り上げ、核兵器との関係に焦点を当てて分析。国際社会で「法の支配」をないがしろにする動きが相次ぎ、核軍縮・不拡散の分野でも「法の支配」よりも「力による支配」が広まる危険な風潮がある中、どのようにして「法の支配」を再構築・普遍化していくのか。こうした問題意識から、国

際政治における国際法の機能と限界についても考える内容になっている。

(よしだ ふみひこ、RECNAセンター長・教授)
(かわい きみあき、RECNA副センター長・教授)

「北東アジアにおける核使用リスクの削減」(NU-NEA)プロジェクト

鈴木 達治郎

RECNAは、2021年度より、ノーチラス研究所及び核軍縮・不拡散のためのアジア太平洋リーダーシップ・ネットワーク(APLN)と「[北東アジアにおける核使用リスクの削減：二度と核兵器が使われないために](#)」(NU-NEA)と題する3年間の共同研究プロジェクトを開始した。2年目(2022年度)は、1年目で取り上げた「[北東アジアにおける核兵器使用](#)」の25事例に加え、ロシアの事例を5つ追加して合計30事例の中から、5つの事例を取り上下、核兵器使用の影響を定量的に評価した(「RECNAニュースレター」vol.11, No. 2, March 2023, p.3にて紹介)。

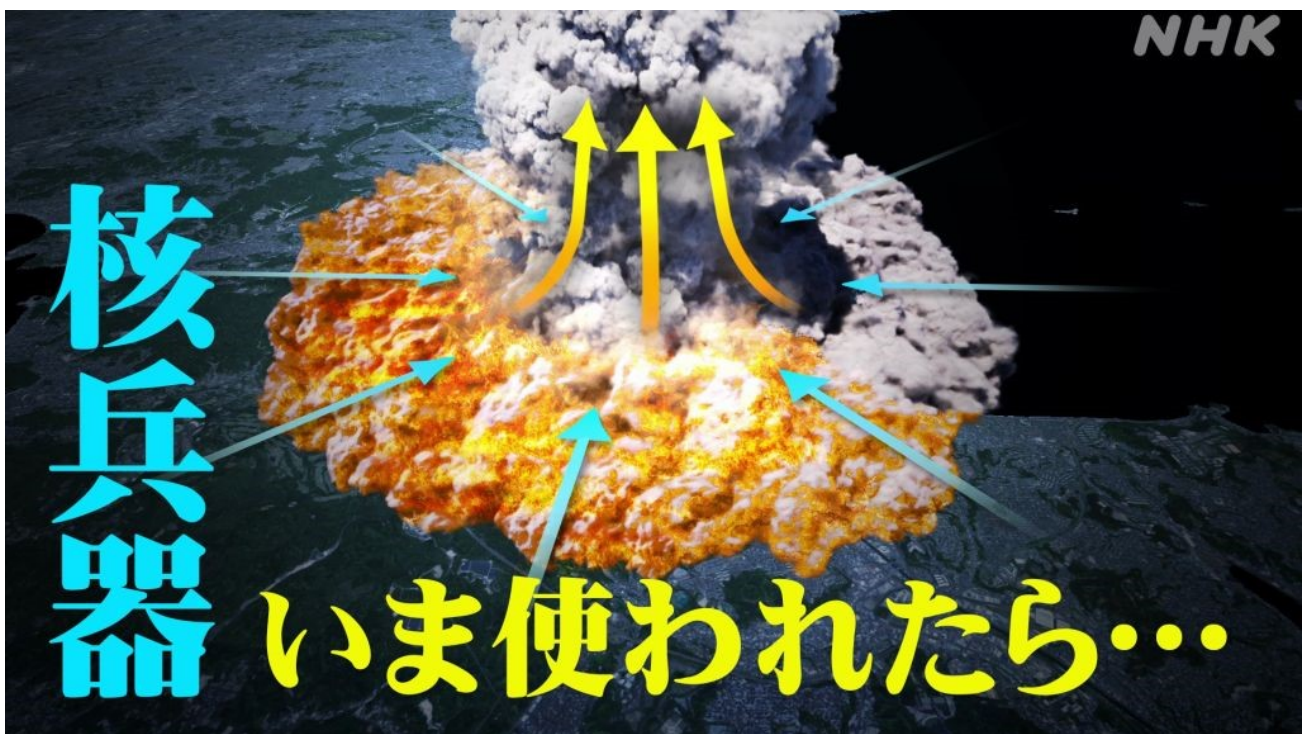
4月7日、2年目の報告書「[北東アジアにおける核兵器使用の人的影響：核リスク削減のための示唆\(英文、和文要旨\)](#)」の発表を行った。この報告書の発表後、まずNHKがその日の「ニュースWatch 7」にて、特別の枠を設けて報道。その他にも、NHK長崎、NBC長崎放送(TBS系)、共同通信、長崎新聞などが、当日または翌日に報道していただいた。

その後も取材が続き、G7サミットで核軍縮が大きなテーマになったため、この報告書が注目を集めた。日本テレビ(「News Zero」)(5月19日)でも、特別枠で紹介された。また、NHKでは、「時論公論」(8月9日)にて、藪内解説委員が詳細に報告書の内容を使って、「核被害を出さないために」という趣旨で解説を行った。

また、最近では、NHK「クローズアップ現代」(8月21日)では、報告書を中心に番組を構成し、米国の専門家Lynn Eden教授やBruce Bennett博士などにも取材のうえ、シミュレーションを動画で解説するなど、詳細に核のリスクについて報道した。のちに英文版もNHK Worldで公開された(9月21日)。

このように、本プロジェクトの報告書は、大きな反響を呼んでおり、3年目の「政策提言」にも多くの注目が集まるものと、期待される。

(すずき たつじろう、RECNA副センター長・教授)



NHK「クローズアップ現代」の画面から

2023年9月23日(土)、RECNAが主催する第2回「核なき未来」オピニオン賞の授賞式が開催された。本事業は、RECNA創設10周年記念事業の一環として2022年に開始されたもので、若い世代に広く核兵器問題の重要性を訴えるとともに、平和な国際社会の実現に貢献できる人材の育成を図ることを目的としたものである。昨年に引き続き長崎新聞社の協力をいただき、また、今年は新たに長崎県、長崎市、KTNテレビ長崎、NBC長崎放送、NCC長崎文化放送、NHK長崎放送局、NIB長崎国際テレビから後援をいただいた。なお、本事業の運営にはRECNA寄付金を活用させていただいている。

オピニオン賞では毎年、時宜に合ったサブテーマを課題の問いとしており、今年は『核兵器は地球を守るか』であった。また、今年は募集枠を「U-20(16歳以上、20歳未満)」と「U-30(20歳以上、30歳未満)」の2つの部に分けることで、高校生を含むより若い層に応募への敷居が低くなるよう工夫した。

結果、応募総数は昨年を上回る122作品(U-20:88件、U-30:34件)となった。海外からの応募は15作品となり、現住所を見ても米国、英国、インドの核保有国をはじめ、インドネシア、ナイジェリア、オーストリア、ベルー、トルコ、韓国と世界各地に広がっている。

芥川賞作家・青来有一氏を委員長とする審査委員会の厳正なる審査の結果、U-20、U-30それぞれの部で最優秀賞

者1名、優秀賞者1名が選定された。以下の通りである。

【U-20の部】

最優秀賞：馬場 みなこさん
(聖和女子学院高等学校(佐世保市)2年、17歳)

優秀賞：海野 遥香さん
(早稲田大学 文化構想学部 2年、19歳)

【U-30の部】

最優秀賞：アディア・ケリムバエワ (Adiya Kerimbayeva) さん
(長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 災害・被ばく医療科学共同専攻 修士課程2年、27歳)

優秀賞：アドリアーナ・ナザルコ (Adriana Nazarko) さん
(ALT(語学指導助手)、25歳)

授賞式には馬場さん、ケリムバエワさん、ナザルコさんが対面で出席し、海野さんがオンラインで出席した。受賞者には青来委員長より賞状と盾が授与された。最優秀賞者2名の作品は、翌24日の長崎新聞紙面に全文(原文が英語のものについては仮訳)が掲載された。また、RECNAのホームページには、受賞者4名の作品全文に加え、最終選考に残った42作品のうち、本人の承諾を得た作品を掲載している。
(<https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/topics/44852>)

(なかむら けいこ、RECNA准教授)



授賞式後の取材に応じる4名の受賞者

- 4月7日(金) ■「北東アジアにおける核使用の非人道的影響について:核リスク削減への示唆」報告書(英文)発表についての記者会見
吉田センター長、鈴木副センター長、Peter Hayesノーチラス研究所所長、David von Hippelノーチラス研究所上席研究員、Eva Lisowski米マサチューセッツ工科大学研究員・東京工業大学大学院修士課程
場所:RECNA1階会議室+オンライン
- 4月10日(月) ■RECNAポリシーペーパーNo.17『核兵器問題の主な論点整理:国際政治・安全保障編』刊行
- 4月22日(土) ■2023年度核兵器廃絶市民講座
第1回 G7広島サミットを前に
講師:吉田センター長、西田多文化社会学部教授、金崎由美中国新聞ヒロシマ平和メディアセンター長
場所:国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館交流ラウンジ+オンライン
- 4月27日(木) ■第2回「核なき未来」オピニオン募集について記者会見
青来有一芥川賞作家・「オピニオン」募集審査委員長、吉田センター長、鈴木副センター長、中村准教授
場所:RECNA1階会議室+オンライン
- 5月18日(木) ■長崎市立外海中学校平和学習 講師:中村准教授
場所:国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館
- 5月23日(火) ■長崎市立野母崎小学校 「被爆前の日常アーカイブ」資料・教材を用いた授業開催
講師:林田特任研究員
場所:長崎市立野母崎小学校
- 5月25日(木) ■RECNAの目(見解文)「G7広島サミットの『責任』とは何なのか」の公開
- 5月31日(水) ■RECNAポリシーペーパーNo.18『核兵器問題の主な論点整理:国際人道法編』刊行について記者会見
吉田センター長、河合副センター長
- 6月5日(月) ■2023年度版「世界の核弾頭データポスター」・「世界の核物質データ」発表記者会見
調核兵器廃絶長崎連絡協議会会長、吉田センター長、鈴木副センター長、富塚元環境科学部准教授、中村准教授、梅林宏道ピースデポ特別顧問、田窪雅文ウェブサイト「核情報」主宰、松久保肇 原子力資料情報室事務局長
場所:RECNA1階会議室+オンライン
- 6月14、21、28日(水) ■長崎市立横尾中学校平和学習 講師:中村准教授
場所:長崎市立横尾中学校
- 6月19日(月) ■諫早市立小長井中学校平和学習 講師:中村准教授
場所:諫早市立小長井中学校
- 6月21日(水) ■長崎市立琴海中学校平和学習(「被爆前の日常アーカイブ」資料・教材を用いた授業)
講師:林田特任研究員
場所:長崎市立琴海中学校
- 6月22日(木) ■RECNAポリシーペーパーNo.17『核兵器問題の主な論点整理:国際政治・安全保障編(改訂版)』刊行について記者会見
吉田センター長、河合副センター長、西田多文化社会学部教授
場所:RECNA1階会議室+オンライン
- 6月28日(水) ■「平和と核軍縮」誌(J-PAND) 第6巻1号刊行
- 6月30日(金) ■APLN-PSNA 1st Workshop(非公開)
吉田センター長、鈴木副センター長、河合副センター長、中村准教授、西田多文化社会学部教授、グレゴリー・カラーキーRECNA外国人客員研究員
- 7月3日(月) ■長崎市立桜馬場中学校平和学習 講師:中村准教授
場所:長崎市立桜馬場中学校

- 7月6日(木) ■長崎市立三重中学校平和学習 講師: 山口特定准教授
場所:長崎市立三重中学校
- 7月15日(土) ■2023年度核兵器廃絶市民講座
第2回 平和教育における被爆地の役割～
サービス・ラーニングを通じた大学生の学び～
講師:西村幹子ICU教授、ICU学生、ナガサキ・
ユース代表団
場所:長崎原爆資料館ホール+オンライン
- 7月20日(木) ■カーネギー国際平和財団(米国・ワシントン
DC)と RECNA の共同プロジェクト
「核軍縮への新たな道程」の研究とデジタル書籍
出版についての発表(学長定例記者会見)
吉田センター長
場所:事務局第2会議室
- 7月23日(日) ■「被爆の実相の伝承」のオンライン化・デジタ
ル化事業 「航空写真アーカイブ」を活用した
フィールドワーク開催
講師:林田特任研究員
- 7月24日(月) ■RECNA「NPTブログ2023」発行記者会見
鈴木副センター長、中村准教授
場所:RECNA1階会議室+オンライン
- 7月27日(木) ■PSNA 2 Book Project Online Workshop
(非公開)
- 7月28日(金) ■海星中学高等学校平和学習 講師:中村
准教授
場所:海星中学高等学校
- 7月31日(月) ■2026年核拡散防止条約(NPT)再検討会議
～
第1回準備委員会参加:調核兵器廃絶長崎連
絡協議会長、河合副センター長、中村准教
授、ナガサキ・ユース代表団第11期生
- 8月11日(金)
- 8月7日(月) ■いわき市・長崎市生徒会リーダー交流会
講師:鈴木副センター長 場所:長崎市役所
- 8月8日(火) ■2023連合平和ナガサキ集会 講師:吉田
センター長
場所:長崎県立総合体育館
- 8月23日(水) 創価高校・長崎FWへの講義 講師:鈴木副セ
ンター長
- 8月28日(月) ■ナガサキ・ユース代表団第11期生 活動報
告会
場所:長崎大学文教スカイホール+オンライン
- 9月16日(土) ■2023年度核兵器廃絶市民講座
第3回 核兵器禁止条約の現状と課題
講師:河合副センター長、中村准教授
場所:長崎原爆資料館ホール+オンライン
- 9月23日(土) ■第2回「核なき未来」オピニオン授賞式
場所:RECNA1階会議室+オンライン
- 9月27日(水) ■ナガサキ・ユース代表団第12期生募集開始
に伴う記者会見
調核兵器廃絶長崎連絡協議会長、河合副セ
ンター長
場所:RECNA1階会議室

お知らせ

世界の核弾頭データ および 世界の核物質データ

2023年度版「世界の核弾頭データ」および 2023年度版
「世界の核物質データ」を公開しました。下記よりデジタル版
を自由にダウンロードいただけます。

2023年度版「世界の核弾頭データポスター」および解説
しおりは [こちら](#)

2023年度版「世界の核物質データポスター」および解説
しおりは [こちら](#)

また、「世界の核弾頭データポスター」の印刷版をご希望の
場合は、[核兵器廃絶長崎連絡協議会](#)（最下段の「お問い
合わせ」先）まで、お問い合わせください。

ナガサキ・ユース代表団第12期生募集開始

下記の要領でナガサキ・ユース代表団第12期生の募集
説明会を開催します。(内容は3回とも同じです)

第1回説明会: 10月18日(水)18:00～19:00

於: 長崎県立大学シーボルト校 中央棟 M102

第2回説明会：10月20日(金)18:00～19:00

於：RECNA1階会議室（オンライン有）

第3回説明会：10月21日(土)10:30～11:30

於：RECNA1階会議室（オンライン有）

◇ 応募受付期間：10月23日(月)～11月6日(月)17:00必着
(郵送または持参)

詳細及び応募様式等は [こちら](#) からご確認ください。

2023年度 核兵器廃絶市民講座 第1-3回のご報告および 第4回のご案内

第1回「G7広島サミットを前に」

講師：吉田 文彦(RECNAセンター長)

西田 充(長崎大学多文化社会学部教授)

金崎 由美(中国新聞ヒロシマ平和メディアセンター長)

日時：2023年4月22日(土)13:30～15:00

会場：国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館交流ラウンジ
+オンライン配信

第2回「平和教育における被爆地の役割 サービス・ラーニング を通じた大学生の学び」

講師：西村 幹子(国際基督教大学(ICU) 教授)

パネリスト：相澤 陽香(ICU 学生)

久世 実子(ICU 学生)

梶 立人(ナガサキ・ユース代表团)

司会：中村 桂子(RECNA 准教授)

日時：2023年7月15日(土)13:30～15:00

会場：長崎原爆資料館ホール+オンライン配信

第3回「核兵器禁止条約の現状と課題」

講師：中村 桂子(RECNA 准教授)

河合 公明(RECNA 教授)

司会：鈴木 達治郎(RECNA 教授)

日時：2023年9月16日(土)13:30～15:00

会場：長崎原爆資料館ホール+オンライン配信

第4回「被爆地からの報道の未来」

講師：加藤 小夜(長崎国際テレビ報道部記者)

佐々木 亮(ジャーナリスト)

日時：2023年11月11日(土)13:30～15:00

会場：長崎原爆資料館ホール+オンライン配信

※ 詳細は [こちら](#) をご覧ください。

2023年度のご寄付

本年度、以下の方のご厚意によりRECNAへご寄付を賜りました。いただいたご寄付は、RECNAの研究活動のために活用させていただきます。誠にありがとうございました。

・ 堤 寛 様



長崎大学核兵器廃絶研究センター

第12巻1号 2023年9月30日発行

発行 長崎大学核兵器廃絶研究センター

〒852-8521 長崎市文教町1-14

Tel. 095-819-2164 Fax. 095-819-2165

E-mail: recna_staff@ml.nagasaki-u.ac.jp

http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/

©2023 長崎大学核兵器廃絶研究センター